

toVO トウゴ  
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2



NO. 018  
20190911

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。







インタビュー

今号のご家族 ▶ 一井 定信さん・智子さん・陽太くん・優太くん・愛香ちゃん・瑛太くん  
ようた ゆうた あいか えいた

撮影場所 ▶ 道の駅「弥生の里」(田舎館村)

●2011年3月11日のこと、覚えていますか？

▶智子さん「子どもたちを学校に迎えに行くところで、車に乗って信号待ちをしていました。揺れは感じたけど、車のTVは点いてたし、停電には気づかなくて、信号まだかな〜と、しばらく待ってました(笑)」▶愛香ちゃん「みんなで◎付けをしていたら揺れました。机の下にもぐった。」▶優太くん「こっちももぐった!なんか盛り上がった。」

▶陽太くん「僕は委員会で体育館で寝たから、机にはもぐってないです(笑)」▶定信さん「私は、兄と深浦に行ったんですが、揺れる1時間くらい前、移動中に普段あまり見かけないサルが5匹も6匹もワーツとたくさん山に登ってって、あ!サルや!サルや〜!言っていました(笑)」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶智子さん「家がオール電化で、普段から乾電池のものがなかったので真っ暗…。思いついて、クリスマスツリーを出したんです。イルミネーションの灯りで、子供たちも元気が出たようでした。あとは…主人のお兄さんが来てるのに、料理をすることもできなくて、どーしようと思ったんですけど、知り合いの漁師さんをお願いして、お刺身を頼んだんです。なんだか普段より豪華になっちゃって(笑)」

▶定信さん「寒いのに暖房はつかないし、ガスの有り難みを感じましたね。灯油ストーブのあるお爺ちゃん家にみんなで固まって、ご飯食べたりしてました!」▶優太くん「そうだ!トイレも流れなくなりました!」▶愛香ちゃん「電気「トイレだからでしょ。」

▶陽太くん「いや、それ俺が原因かもしれない。」

▶定信さん「まじめに答えなさい(笑)」

●震災後、何か変わりましたか？

▶優太くん「自分で防犯グッズを買っておこうと思った。けど…まだ買ってないです…(笑)」

▶定信さん「ガソリンがしばらく高かったじゃないですか。私は仕事で黒石・五所川原・深浦を往来するので、本当に大変で。節約も兼ね、健康の為に自転車にするか〜と決意したんですよ。それでホームマックに買いに行っ。でも、そのうちにガソリンも復活して、結局、使わなかったです(笑)」▶智子さん「スーパーにみんなでロウソクと電池とカップラーメンとチャッカマンを買いに行きました。なくて本当に困ったので、これを機にちゃんと備えて、普段から電池のものも置いてくようになりました。震災から1年経った次の日に瑛太が生まれて、最中、TVで震災の番組をやっているのを見ながら、当時、あの状況の中で育児をしていた人はえらいなあ〜と思いました。」

●10年後は？

▶定信さん「みんなどこ進むの?」▶陽太くん「医学部。お父さんの背中をみて。…なんかデカい(笑)」▶愛香ちゃん「医学部。自分で病院建てたい。」▶優太くん「じゃあ、そこの助手やる(笑)」▶定信さん「ある程度悠々自適にやっているのでと思う。子どもたちがちゃんと大学行って、ちゃんとした人になってくれればと。瑛太とは、野球を一緒にしようかな。もしかしたら、もう1人生まれてるかも(笑)」▶智子さん「瑛太はお兄ちゃんたちよりも、すごい野球少年になるかな〜。家族はもう1人増えて、そして、美魔女目指します!(笑) 家族、増えると嬉しいな。」 **終**

**定期購読のお申し込み** 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金) / 1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011 / 12号セット)は、1,500円で販売中です。

**編集後記** tovoの活動にご協力いただいている美容院が行きつけで、店さんから話を聞いてぜひ協力したいと名乗りをあげてくださった智子さん。兄弟みんな仲がよくにぎやか。3人で1歳の瑛太くんの相手をする様子は手慣れたもので、とても微笑ましかったです。当時のことを尋ねた際に、はじめは言葉の少なかつた子どもたちも会話が進むにつれて思い出したように話をしてくれて、この瞬間のためのこの活動だとメモする手にも力がこもりました。字はミミズだけど、【坂本小貴】

東日本大地震・津波被災者チャリティー

**tovo** トヴォ

2011年6月~2013年8月25日まで

**¥1,862,131**

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶一井 定信さん・智子さん・陽太くん・優太くん・愛香ちゃん・瑛太くん

撮影場所▶道の駅「弥生の里」(田舎館村)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶智子さん「子どもたちを学校に迎えに行くところで、車に乗って信号待ちをしていました。揺れは感じたけど、車のTVは点いてたし、停電には気づかなくて、信号まだかな〜と、しばら〜く待ってました(笑)」

▶愛香ちゃん「みんなで◎付けをしていたら揺れました。机の下にもぐった。」

▶優太くん「こっちももぐった！なんか盛り上がった。」

▶陽太くん「僕は委員会で体育館で寝てたから、机にはもぐってないです(笑)」

▶定信さん「私は、兄と深浦に行ってたんですが、揺れる1時間くらい前、移動中に普段あまり見かけないサルが5匹も6匹もワーツとたくさん山に登ってって、あ！サルや！サルや〜！言っていました(笑)」 ●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶智子さん「家がオール電化で、普段から乾電池のものがなかったので真っ暗…。思いついて、クリスマスツリーを出したんです。イルミネーションの灯りで、子供たちも元気が出たようでした。あとは…主人のお兄さんが来てるのに、料理を作ることもできなくて、どーしようと思ったんですけど、知り合いの漁師さんをお願いして、お刺身を頼んだんです。なんだか普段より豪華になっちゃって(笑)」

▶定信さん「寒いのに暖房はつかないし、ガスの有り難みを感じましたね。灯油ストーブのあるお爺ちゃん家にみんなで固まって、ご飯食べたりしてました。」

▶優太くん「そうだ！トイレも流れなくなった！」

▶愛香ちゃん「電気のトイレだからでしょ。」

▶陽太くん「いや、それ俺が原因かもしれない。」

▶定信さん「まじめに答えなさい(笑)」

●震災後、何か変わりましたか？

▶優太くん「自分で防犯グッズを買っておこうと思った。けど…まだ買ってないです...(笑)」

▶定信さん「ガソリンがしばらく高かったじゃないですか。私は仕事で黒石・五所川原・深浦を行き来するので、本当に大変で。節約も兼ね、健康の為に自転車にするか〜と決意したんですよ。それでホームックに買いに行って。でも、そのうちにガソリンも復活して、結局、使わなかったんですけど(笑)」

▶智子さん「スーパーにみんなでロウソクと電池とカップラーメンとチャッカマンを買いに行きました。なくて本当に困ったので、これを機にちゃんと備えて、普段から電池のものも置いとくよ

うになりました。震災から1年経った次の日に瑛太が生まれて、最中、TVで震災の番組をやっているのを見ながら、当時、あの状況の中で育児をしていた人はえらいなあ～と思いました。」

### ●10年後は？

▶定信さん「みんなどこ進むの？」

▶陽太くん「医学部。お父さんの背中をみて。...なんかデカいなと(笑)」

▶愛香ちゃん「医学部。自分で病院建てたい。」

▶優太くん「じゃあ、そこの助手やる(笑)」

▶定信さん「ある程度悠々自適にやっているのではと思う。子どもたちがちゃんと大学行って、ちゃんとした人になってくれればと。瑛太とは、野球を一緒にしようかな。もしかしたら、もう1人生まれてるかも(笑)」

▶智子さん「瑛太はお兄ちゃんたちよりも、すごい野球少年になるかな～。家族はもう1人増えて、そして、美魔女目指します!(笑) 家族、増えると嬉しいな。」

### 【編集後記】

tovo の活動にご協力いただいている美容院が行きつけで、店主さんから話を聞いてぜひ協力したいと名乗りをあげてくださった智子さん。兄弟みんな仲がよくにぎやか。3人で1歳の瑛太くんの相手をする様子は手慣れたもので、とても微笑ましかったです。当時のことを尋ねた際に、はじめは言葉の少なかった子どもたちも会話が進むにつれて思い出したように話をしてくれて、この瞬間のためのこの活動だなとメモする手にも力がこもりました。字はミミズだけど。【坂本小雪】

【寄付総額】2011年6月～2013年8月25日まで、『¥1,862,131』を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。